KSK まちの仲間

第20号

発行日　2001年3月8日
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家内
TEL 045(623)5318　FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物許可
KSK増刊通巻2726（毎月12回2・3・4・5の付（日発行）

入居者の高齢化にどう応えるのか

横浜市グループホーム連絡会
室津茂美

昨年九月、私たちは在宅障害者援護協会（在援協）と合同で、六四カ所の関係グループホームについて、入居者の高齢化に関する実態調査を行いました。

対象となった入居者総数は三〇七名。四五歳以上の入居者の占める割合は二四％。四五歳以上の入居者のいるホームは三三カ所、五〇％でした。

入居者の健康状態について、何らかの慢性疾患にかかっている人の割合は、四四歳以下の入居者では三二％、四五歳以上の入居者では九二％と、四五歳以上になるとほとんどの入居者が何らかの慢性疾患を抱えているという結果でした。

疾患別に見ると多いのは高血圧、精神疾患、糖尿病、高齢に伴う眼科疾患でした。なかでも群を抜いて多かったのが高血圧と精神疾患です。

そして慢性疾患を抱える入居者に対する生活上の配慮について多かったのは、精神的に不安定な状態になりやすいことへの配慮。ついで疾患による食事制限への対応でした。

通院については六二％が付添必要で、付き添う人は職員との回答が多く、毎週通院があると答えたホームは二七％でした。

入院については三七％のホームが入居者の入院経験があると答えています。その時の付添についても職員が最も多く、ついで親兄弟でした。過去の調査では入院は少なかったのですが、着実に増えています。

また平日の昼間ホームにいる入居者については、四五歳以上の人は二二％と、四四歳以下の九％に比べて明らかに高い割合を示しています。

入居者の高齢化問題とは、障害者が医療を受けることの課題を解決することと、グループホームで昼間を過ごせるようにすることといえます。

医療に関する自由記述の中で、障害者を理解してくれる病院が少ないこと、援助者が病状を的確に把握することのむずかしさ、医師をはじめとする医療スタッフとの連携のむずかしさなどが多く寄せられていました。

地域生活支援の中での健康管理と医療についての取り組みが迫られています。

グループホーム元職員による横領事件と新聞報道に対する見解

横浜市グループホーム連絡会会長 室津滋樹

経過

横浜市内のグループホームの元職員が、その在職中、助成金を横領・詐取していたという事件が十一月二十一日の毎日新聞報道により、明らかになりました。

これは、運営委員会が運営するグループホーム（横浜市の独自の制度でA型グループホームとよばれています）で、元職員が「アルバイト・ボランティア謝金」名目で助成金を三年間にわたって横領・詐取（総額七百五十万円）していたという事件です。この事件は、助成金を交付している横浜市在宅障害者援護協会（在援協）が行った平成十一年度監査で判明し、同協会が、平成十二年五月に神奈川県警にこの元職員を告発し、二〇〇一年一月十四日現在、警察が捜査中です。

在援協は、警察の捜査への影響等を理由としこの事件の公表をしていませんでしたが、毎日新聞が十一月二十一日、この事件を報道、その後在援協からも、事件の概要が明らかになりました。

事件の背景

横浜市のグループホームへ助成制度は、多くの援助を必要とする入居者への加算を行うなど、国の制度より充実した内容となってはいますが、まだまだ不十分で、入居者一人一人に必要な援助を行うには、大変な運営努力を必要としているのが現実です。その不十分なグループホームへの助成金からの横領ですから、入居者に大きな犠牲を強いていたことが想像されます。しかし、なぜ入居者がこのことを問題にすることができず、事件が長期にわたってしまったのでしょうか。このことが、この事件の核心ではないでしょうか。

援助者と入居者、障害者と非障害者という関係で、障害者が声を上げることは大変な覚悟と勇気が必要です。また、入居者たちは、社会経験の機会を奪われ、障害者だけの社会にいたために、このような犯罪に無防備だったのではないでしょうか。こうした現実が事件を防げず、長期にわたった背景だと思われます。しかし、ものをいえない現実はこのグループホームだけとは限りません。犯罪に無防備であるという現実もここだけではないでしょう。

では、こうした弱さを持つ障害者が中心となるような運営ではなく、「しっかりした組織」が運営すれば問題は解決するのでしょうか。私たちは、当事者が運営する運営委員会方式は、今後ともますます重要だと考えています。

運営委員会というのは入居者、職員、そのホームをつくった親や障害者団体、そして地域の関係者などでつくられるホーム運営に責任をもつ組織です。このしくみによって障害者の施策のあり方は大きく変わりました。今まで障害者関連の場は施設に代表されるように、社会福祉法人でなければ運営できないものばかりでした。つまり法人が作ったものを障害者や関係者は利用させていただくしか方法がなかったのです。

ところが、運営委員会方式の作業所、グループホーム等が横浜市にできてから、障害者や親が中心となって、自分たちが本当に必要としているものを作りだそうとする機運が大きくふくらみました。これらの機運を在宅障害者援護協会がきめ細かく支援し、グループホームや作業所づくりにつなげていく役割を果たしてきたことで運営委員会方式の作業所、グループホームが多数実現してきたのです。

この十五年間で横浜市の作業所やグループホームは全国的にみて

も質、量ともに飛躍的に向上しました。重い障害をもっていても、地域の中で生活を続けている人もたいへん多くなりました。一方、地域の中にグループホームが増えてきたことは、横浜という地域全体を変えてきたと思います。建物や道路、交通機関なども障害者が地域の中で暮らしてきた年月の間に少しずつ改善され、障害を持った人にも使いやすいものに変わってきました。

新聞報道とその問題点

この事件の告発後、在援協は「捜査への影響を考慮して、公表に慎重に対処してきた」と述べています。また、私たちの活動を支え、育ててきた在援協としては、このような事件によって、よりよい援助を目指して必死の思いで運営している他のグループホームへの影響をおそれてということもあるのかもしれません。しかし、現時点で振り返ると、このような事件の再発を防ぐためにも、また、私たち運営委員会の弱さを克服するためにも、事件を公表できる範囲で公表すべきではなかったかと思います。

今回の毎日新聞の記事は、事件が明らかになったという意味では評価しているのですが、以下の点については問題があると考えています。

①問題のグループホームや作業所の元職員を特定していないため、多くの作業所やグループホームで不正が行われているかのような印象を与えています。現時点で特定した報道はできないのは当然ですが、誤解を与えないように工夫が必要です。

②グループホームについて「休日を過ごす場所」と説明されています。これは三六五日、入居者の一生にわたる生活の援助を目指してその運営に苦労している多くのグループホームの実態を認識していない記述で、現状をきちんと把握しないまま記事にすることはグループホームが大きな不利益を受けることになりかねません。

③多くの不正事件の報道と同様、行政（この場合は在援協）の管理、監督の甘さを批判するという内容になっていますが、これからの福祉をどのように発展させていくのかという視点が欠落したまま、管理、監督の強化だけが防止策だとしている記事の論調は、市民が参加する草の根型の福祉の発展に逆行する主張だと考えます。

今後の課題

この事件が起きたグループホームは、連絡会所属のホームではないものの、グループホームに関わる団体としてたいへん残念に思っています。

現在警察の捜査が行われているとのことですが、公金を横領し、障害者を食い物にしてきた元職員の社会的責任こそがきちんと問われるべきです。また運営責任者として、運営委員会が職員の不正を見抜いてその責任を問う力を自ら持てなかったことの責任は問われなければならないと思います。さらに不正をチェックし、自ら解決することができなかった運営委員会の弱さについては、連絡会としてもそのあり方を検討していかなければならないと考えています。

また、毎日新聞の記事のように不正事件を防ぐためには在宅障害者援護協会による管理を強化すべきだという主張があります。しかしこの方法では、たとえ不正を防ぐことができたとしても自主的で創造的な当事者運営の活動は弱体化していってしまいます。私たちはこのような事件を防ぐためには、管理や規制を強化するのではなく、障害当事者や運営委員会自体が不正を防ぐ力を身につけ、自己解決能力を高めていくことが必要と考えています。

エンパワーメントこそが今、求められているのではないでしょうか。

2001.3.8 発行 まちの中で No.20 1976.12.22 第3種郵便物認可 KSK 増刊通巻2726（毎月12回 2・3・4・5の付く日）発行 〔4〕

新しい仲間ですよろしくね!!

春風

ドリームハウス春風は、男性1名、女性4名の明るいメンバーぞろいです。にぎやかな中は、お酒を飲むとさらにパワーアップ!! 歌い、踊り、男性のくどき方を職員に伝授しいい。笑い声が絶えない、春風に、ぜひ遊びにきてくださいネ。

「カリタス」のお知らせ

上段は好きな物・下段は嫌いな物

大塚 幸男 ビール・ビール大好き
別になし

枝元 的男 パチンコ、散歩、ビール
特別になし

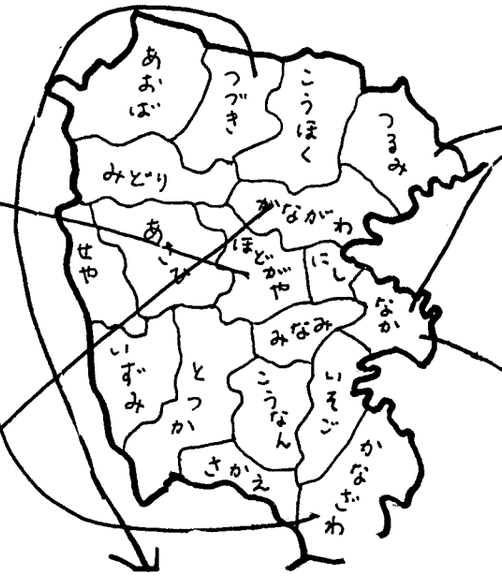
出脇 明美 おしゃべり、メール、カラオケ
目刺し

戸田 悦子 カラオケ、散歩
何もない。

森本千鶴子 食べること。カラオケ
うなぎ、鯨

山添美智子 カラオケ、お酒、寝ること。
なめこ、納豆、生野菜

グループホーム あざみ



『もくせい』

2003年7月に
オープンしたばかりの
グループホームです。

男女合わせて
5人で仲良く暮しています。

グループホーム「クローバー」

僕達は毎日そうじせんたくをよく
かんばっています。
いろんな人達が手伝いに来て
くれて楽しくくらして
います。

グループホーム若人

柴田 剛さん・21才と若いのに何故か演歌好き。
演歌を歌わせたら右に出る者無し

長沢光芳さん・メンバー中最年長の37才、その渋い
容貌と優しい眼差しは接する者の心を和ませる。
（誉めすぎか？）

上野 泰さん・自他共に認めるメンバーの代表者
その行動力はしばしば職員の度胆を抜く程。

安藤秀樹さん・メンバー中「おしゃれ」と
言えるのはこの人だけかもしれない。

どうぞよろしくお願いします。

なかなかホーム

笠原真洋です。
たのしいです。
こんどみんなで
おんせんへ
いきたいです。

遠藤大吾です。
ぼくは本がスキです。
なかなかホームは
たのしいです。

安寧なみ
わたしはハブラシあっめがすきです。

研修会報告
グループホームの主役は入居者

十月三十一日、ご自身が脳性マヒ者であり、長年、青い芝の会の活動を通して、「障害者はあってはならない存在なのか」と提起し続けてこられた横田さんをお招きして研修会をおこないました。参加者は三七名でした。

横田さんの生きてきた六七年間の大変な時代を経て語られる言葉は、聞く人の心にずしりと響きました。

親に対しては我が子の可能性を信じて、障害があるからと生き方まで固定化したり、まして命までも軽く考えないでほしいと。

援助者に対しては本人のための想い込みでいつの間にか援助者が物事をきめてしまうことのないよう、あくまでも入居者のアシスト役に徹してほしい。

障害者の皆さんに対しては、多かれ少なかれ援助を受けなければ生きてゆけない。自分の生活を大切にし援助者との付きあい方や何のためにグループホームを選んだのか考えないと小さな施設になってしまう。グループホームの主役は入居者なんだよ！とそれぞれの立場の人へのメッセージです。

参加された方々の感想

○横田さんのストレートな気持ちが聞けてとても感激しました。身をもって体験されてきた貴重な話を聞くことで、今日までの活動の歴史が手に取る様にわかりました。

○グループホームの主人公は入居者なのですということや、人の命は何よりも大切なものなのですという言葉が心に残りました。

○今後、援助者はなにをどうアシストしていけばいいのかを考えさせられました。時々は立ち止まり、根本を見なおし、自分のしていることが入居者の為になっているのか考えていきたいと思います。

横田弘さん

スウェーデンの人たちはどんな活動をしているのかな？

昨年、十一月二十二日、二十三日「横浜ラポール」で在援協等五団体の共催によるスウェーデンの本人活動団体「グルンデン」の人たちとの交流会や講演会がありました。

交流パーティーで談笑する皆さん

スウェーデンの人たちと交流して

来夢 牧 正一

11がつ22にちあゆみそうのバスでランドマークタワー、ベイブリッチ、やましたこうえんそしてちゅうかがいをあるきました。グルンデンのひとたちもひとのおおさにはおどろいていましたがよろこんでくれました。よこはまはあたたかいといっていました。

11月23にちグルンデンのひとたちのはなしやパーティにさんかしてがんじたことは、グループホームのはなしはあまりできなかった。しょくいんのてをあまりかりず、じぶんたちでうんえいしている。ぼくたちもできるようになるといいなあとおもいました。

ぼくは、こじんてきにトイヌのほいくえんのはなしをもっとたくさんききたかったです。

スポーツ大会

十一月十二日、ゴロバレーをあゆみ荘体育館で、サッカーを葛が谷公園でおこないました。

★ゴロバレー大会報告

下宿屋　井出洋忠

四チームに分かれ、トーナメントを行いました。身体障害の人、力の強い人が同じくらいずつ、それぞれのチームに入ってやりました。参加者は二五名でした。

優勝は、四季、若人、春風のBチーム。感想は「疲れた」の一言。

今回はじめのうちは、動ける人がうしろなので、前回よりみんなボールにさわれました。でもうしろの人がだんだん前にきて、動けない人のところにきたボールをとってしまうこともありました。

またルールの説明がうまく伝わっていないという問題もありました。ごくろうさまでした。

サッカー大会報告

11月12日）くずがやこえんでサッカーをやりました。
サッカーにでたひとは29にんでした。
けいけんしゃチームとしょしんしゃチームにわかれてやりました。けいけんしゃチームはゆうあいかなざわとともものいえとやまゆりのひとたちのチームがかちました。
えむぶいぴーはかなざわのさとうさんです。
しょしんしゃチームはともものいえとびーんずとだいどうほーむとわこうどとほほえみのチームがかちました。
えむぶいぴーはほほえみのたかはしさんです。
たのしかったです。つかれました。

グループホームイルカ　坂野清一

明るい未来を願って
―つどい開催―

十二月八日、大通公園にて「障害福祉の未来を考える集い」が三連絡会合同で開かれました。

千名をこえる参加者の熱気の中、入居者を代表して永田さん、長瀬さんが、グループホームのことや将来のことを話して下さいました。

こんにちは、はるかぜのながせすずよです。グループホームにはいれてたのしかったです。ゆめをみているみたいです。わたしがむかしいたしせつには、きそくがたくさんあってせんせいによくおこられました。グループホームにはじぶんたちのへやがあります。じぶんたちでいろんなことをきめることができます。グループホームがもっとたくさんできるといいです。ホームでは、だいすきなキンキキッズのうたをきいたりおどったりしています。

こんにちは、永田です。私はグループホームさくらの家でくらしています。さくらの家は、おとこの人ひとりとおんなの人三人のグループホームです。グループホームでは自分のへやでテレビを見たり、みんなで話をしたり、こんだてを自分たちでえらんだり、花を育てたりしています。

私は入居者部会の会長をやっています。入居者部会はグループホームれんらく会の入居者のあつまりです。会長、副会長はせんきょできめます。

入居者部会はみんなとなかよくなったりいろんなことを話しあうところです。ことしはスポーツ大会やこうつうアクセスやひがえり旅行をしたりします。私はしょうらいひとりぐらしをしてけっこんをしたいとおもいます。

協力会員募集！

まちの中で くらしている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるために ご支援をお願いいたします。

会費（年） 1口 2000円
振替 … 00280-7-73608
横浜市グループホーム連絡会

※ 協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を！

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねむっている未使用のテレフォンカード、オレンジカード、ビール券、商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会 事務局
〒231-0833
横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費振り込みお願いいたします。

住所変更などありましたらお知らせ下さい

ありがとうございました

（2000.8.1～12.31）敬称略

寄付 佐藤由身子

テレカ 桑原玲子 大川武 奥本民代 牧野カツコ

協力会員 奥本民代 愛敬千賀子 末田耕司 山田モトヨ子 西岡誉富 佐藤由身子 木戸敏 牧野カツコ 植田慶子 鈴木伸

編集後記

新しいグループホームの紹介も、増え続けるスピードに追いつかないほどです。
入居者部会の活動も活発になっています。

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人 横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10 本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-73608
名称 横浜市グループホーム連絡会
編集責任者 室津 滋樹
定価 100円